

恋するフォーチュンクッキー 汗と笑顔の一体感!

今回の軽トラ市の目玉が「がんばっぺ矢板2000人恋するフォーチュンクッキー」と称して行われた参加型イベントだ。

「AKB48」が歌って踊るこの曲ののって二千人が一緒に踊ることを目指したが、その倍近い三千四百人が参加し、大盛況だった。

子どもから高齢者まで

今回から軽トラ市全体の企画、運営を全面的に任せられた商工会青年部。企画委員会を作り議論を重ねてきたが、この目玉イベントもそこから出たアイデアのひとつだ。

そもそもの発端は、メンバーがたまたまユーチューブで見た、寄居町で千人を集めて行われた同様のイベントの動画だ。

子どもからお年寄りまで、幅広い層が楽しそうに踊っている映像を見て、ふるさと祭りなどにはなかった光景だと思った。

ふるさとと矢板を元気に

「指定廃棄物の処分場問題や、シャープの縮小、竜巻や台風、大雪などの自然災害が

続き、矢板のまちに元気がなくなってきた。このイベントをきっかけに一体感が生まれ、ふるさとと矢板が元気になれば」と話す副実行委員長の藤田欽哉さん。

寄居町が千人なら、矢板市は二千人を集めようというところになり、チラシや、練習用DVDを作った。百枚作ったDVDは、剣道教室や、フラダンスチームなど市内の各種団体だけでなく、議会や、市役所の課長会にも配布。軽トラ市の後に配信される動画では、市議や市長をはじめとする職員のダンスも一緒に見られる予定だ。

参加者の笑顔が

本番までに、市内各地で四回の練習を行い、のべ約千人が参加してくれたが、そのなかでいろいろなことが見えてきた。なかでも一番印象深かったのが、参加者の笑顔だったという。

実行委員会が考えていた以上に参加者が楽しんでくれ、たくさん笑顔に出会った。子どもより

もむしろ親が楽しんでいることが意外だった。

また、満開の桜となった長峰公園での練習日。花びらの舞うなか、矢板中央高校バスケット部の約四十人が先生と一緒に参加してくれた。ほかにも、東小学校六年生の生徒から、練習用DVDが欲しいという要望があったり、塩谷町や日光市など矢板市外からも若い人が参加してくれたりと、練習を重ねて行くたびに大きな手応えを感じた。

(M・O)



当日参加した人にインタビュー (K)

ペンギン着ぐるみの二十代の姉妹
楽しいけど着ぐるみが暑いので早く終わって欲しい(笑)
(きれいに化粧した顔に汗が光っていました)

三十代女性と男友達

女性はセーラー服、男性は女装で参加していたので娘さんとお父さんかと思いをかけました。友人同士三十代とのこととちょっとビックリ。女性の方の娘さんも来ていたのですが疲れて通路に座っているとのこと。お母さんたちのほうがパワフルで楽しそうに踊っていました。

五十代夫婦で参加

娘と参加したかったが修学旅行へ行っているので夫と参加しました。
(五十代にしては切れの良いダンスをしている奥さんでした)

二十代夫婦と女の子三人の家族

上の子がAKBが好きなので家族で参加しました。親子で踊ったりこんな大勢で踊ることなんてないので楽しい。またあればいい。
(お父さんは下の子を肩車して踊っていました。お疲れ様!)

踊りのお姉さん登場!

今回のイベントで、事前に行われた四回のダンス練習会と当日のダンス指導を担当したのが、ダンススクール「Beehive」代表の藤田明湖さん。

幼い頃からダンスが好きで、日本女子体育短期大学の体育科舞踊専攻に進学。クラシックからモダン、日舞、フラメンコ、タップ、ジャズダンスなどほとんどのダンスを習った。

その学生時代にダンススクールにも通うほどのダンス好き。
卒業後も、エアロビクスのインストラクターなどを

「生徒の保護者の皆さんや、市内の各事業所の皆さんのご協力で、目標の人数を超え、無事に終えて安心しました。今後、地元を盛り上げるような活動をしていきたいと思っております」と、ほっとした様子で話してくれました。(K・H)



笑顔で踊る藤田明湖さん